

# 経営と健康



## 日本史を彩った女性たち 第八回

### 「明治・大正に活躍女性（その2）」

講談師 一龍齋貞花

女に何が出来るといわれた時代に自己主張した強い明治女性たち。

#### 女優 松井須磨子

女優者は白拍子以来媚こびを売ったり、ときには娼婦まがいの行為をして風紀を乱すと歌舞伎など女性を締め出していた。歌舞伎には今も女性は出演出来ません。明治19年に生れ2度の結婚も離婚。帝劇での第1回公演ハムレットのオフェリア役で女優松井須磨子誕生。44年文芸協会演劇研究所第2回公演「人形の家」大当たり。翌年第3回公演で須磨子の人気は絶頂に達し、大正2年島村抱月と芸術座結成。抱月は家族を捨て須磨子と生活を共にしたが、須磨子のわがままから沢田正二郎らが退会するも、新劇普及、大衆路線確立により「カチューシャ」の歌が大流行。カチューシャ役440回、抱月が大正7

年11月スペイン風邪で急逝。翌8年1月「カルメン」初日終演後芸術座道具置場で抱月の後を追いつ3歳で自殺。

わがままな女性であったがその気の強さが女優として花開き、愛する人を一途に想い華々しい生涯であったと申せましょう。

#### 情熱の詩人 与謝野晶子

明治11年堺の豊かな商家に生れ、少女の頃から深夜まで働き、わずかな時間をさいて源氏物語など王朝文学に熱中。その後歌人と謝野鉄幹のもとへ走り結婚。「やは肌のあつき血汐にふれも見て、さびしからずや道を説く君」この「みだれ髪」で一躍詩壇の女王の地位を築いたが、晶子の名声に夫鉄幹は面白くなく他の女性に向った。夫の女性遍歴はとやかく言わないが、結婚した翌年明治35年から大正12年までに12人の子

ども（2人すぐ没）を出産させられる苦しみを述べている。小説、童話、感想文など最も忙しい時で無理もありません。鉄幹がこんな人間だったとは知らなかった。「良妻賢母」がいかに女性をおろそかにするかを熱心に語り、女性解放のパイオニアでありながら夫を受け入れていた。日露戦争に出征した弟の生還を願う気持ちを謳った「君死にたもうなかれ」の反戦の名詩を残し、脳溢血で倒れ半身不随になり昭和17年64歳で亡くなった。

#### 婦人運動家 伊藤野枝（明治17年—大正12年）

東京上野高女在学中、英語教師辻潤と恋仲になり前年結婚した夫と離婚。平塚らいてうの青鞥社に参加。大正5年機関誌「青鞥」を主宰。足尾鉍毒事件の谷中村取材を契機に因習的な家族

制度を批判し5人の子どもを産みながら革命運動家となり、無政府主義者大杉栄と知り合い結婚。大正12年大震災後の9月16日、大杉とその甥の橋宗一と共に甘粕大佐に虐殺された。帝国主義の犠牲となったとされる。

革命運動家として行動しながら辻の子を宿している時木村莊太に魅かれ、「私は心からあなたを愛します」と送った手紙、木村と交換した手紙を描いた実名小説が話題となり、新聞、雑誌に取り上げられ講談化され一躍有名にした。奔放な生涯今なら連日ワイド番組をにぎわせたことでしょう。

#### 大逆事件により死刑 菅野スガ

明治14年大阪船場に生れ、洋服姿が羨望せんぼうされる少女期を過ごしたが、やがて家は没落。望まない結婚をするも離婚。小説で身を立てようと作家宇田川

文海に師事するも妾のような生活を送りながら、男性と対等の能力を持つ「不世出の天才」と紹介され、大阪朝報の記者になり随筆や自伝小説を連載。キリスト教に帰依したものの社会主義の道へ進み、人権平等を訴えた連載小説「露子」を発表。荒畑寒村と出会い結婚、寒村の影響から社会主義思想を深めていき赤旗事件に巻き込まれて入獄。出獄後幸徳秋水の経済的援助により療養生活を続けやがて秋水と同棲。明治42年「自由思想」を発行するや、菅野は明治天皇暗殺計画を図つたとして11名と共に検挙された大逆事件により、秋水と共に死刑。

戦後発見された獄中手記「死出の道艸」は、「死刑の宣告を受けし今日より絞首台に上るまでの己を飾らず偽らず、自ら欺かず極めて率直に記し置かんとす」激しい闘志と同土愛が書かれている。立場によっては冤罪だ。妖婦だと評価は分かれているが、享年29歳の若さ凄まじいという他ありません。

(参考文献・東京新聞明治・大正の女性作家及び三省堂日本人名事典)

清国女子教育の先駆け河原操子

明治8年長野県松本に生れ、漢学者の父親の薫陶をうけ、女子高等師範学

校(お茶の水女子大)に学び、女子教育の第一人者下田歌子と出会い、横浜の清国人子女教師。日本人による清国人子女教育の先駆けとなり、明治35年上海女学堂から女性教師が欲しいと歌子に依頼があり操子を推薦。操子は安全な租界でない日本人一人もいない不潔きわまりない城内で自ら生活、生徒たちと共同生活。スラム街に住む住民と寝食を共にし、生徒たちから信頼され慕われ更に一年半後蒙古へ転勤。当時蒙古は百余りの小王国があり、ロシアの圧力を恐れる中、親日的なカラチン王国へ。王が女子教育の必要性を感じ日本政府に女性教師を依頼したのでした。

日本人を初めて見るとあつて生徒集めに苦労したが、王妃の援助を受け開設した女学校で誠意ある教育によつて学生は大喜び。一方日露戦の最中とあつて操子は満蒙各地に潜行する日本人諜報員の通信拠点の役目を担い、ロシアの情報を北京経由で日本へ送り続け、国際貢献を担う教育者であり諜報の役目をも果たすという正に命がけの働き。「今我が故国は安危の時と聞き恐ろしさ、つらさをいふべき時に非ず」この一言こそ明治の日本女性の強靱な精神を表しています。帰国後父の計らいで見合い結婚、夫に従い長らくニューヨークに住み日米

友好に尽力。昭和20年熱海で70歳で死去。晩年は穏やかな日々だったことでしょう。それにしても外国で教師、諜報員を務めるなど波乱の人生を送った女性が広く紹介されない、知られていない不思議です。諜報活動したからでしょうか。

(参考文献・致知出版日本の偉人より)

和歌を佐々木信綱に、画を橋本雅邦に学び、夫の親友であつた夏目漱石の指導を受けて小説を書き、樋口一葉に次ぐ作家と評価された大塚楠緒子。明治38年日露戦争を背景に美しい反戦詩「お百度詣」は、与謝野晶子の「君死にたもふことなかれ」と並び称せられ名詩といわれ、漱石の恋人説もある才色兼備の楠緒子は35歳の若さで病死した。

(参考文献・三省堂日本人名辞典)

新宿中村屋創始者相馬黒光、文学も明治初期の三女性の一人といわれ、文芸サロンを開き若い芸術家を支援、その一方ロシア人亡命者をかくまうなど男性も及ばぬ働き。この創始者を知らない社員がいると新聞に書かれていたが、社員教育不足ではないだろうか。

(参考文献・中村屋資料より)

元治元年に生れ、「小公子」の翻訳で知られる若松賤子。英語塾(フェリス和英女学校)明治女学校で教師を勤め日本ではじめて少年少女のためのキリスト教文学を紹介。明治女学校創立者、多くの雑誌に創作、評論、詩などで文学者として地位を確立、胸を患い明治29年33歳で死去。バイオリニスト巖本真理は孫。

(参考・ウィキペディアより)

看護婦として最高の栄誉である「フーレンス・ナイチンゲール記章」を萩原タケ、山本ナヲと共に日本最初の受賞となった湯浅うめ、貞花がラジオ福島で放送した会津の女性の一人。

和洋裁縫女学院(和洋女子大学)創始者堀越千代。東京女医学校(東京女子医大)創始者吉岡彌生。前号で紹介した津田梅子財布の中には梅子の新札が入っているでしょう、跡見花蹊など学校創立は男性顔負けです。

昭和21年女性が初めて参政権を得た戦後初の総選挙で世界一の39人の女性国会議員誕生。だが今は女性議員の数は世界190カ国中165位。でも連合の女性会長は大きな発言も。検察トップの検事総長に初の女性就任。企業にも女性の役員は増えていくことでしょう。